

第11回東京環状道路有識者委員会について（速報版）

日時：平成14年10月31日(木) 17:00～19:00

会場：ホテルルポール麹町 麹町会館「マール」

出席者：(委員長) 御厨 貴 政策研究大学院大学教授
(委員) 石田 東生 筑波大学社会工学系教授
越澤 明 北海道大学大学院工学研究科教授
中条 潮 慶應義塾大学商学部教授
森田 恒幸 国立環境研究所社会環境システム研究領域領域長
東京工業大学大学院教授

主な意見：

10/31読売新聞夕刊の記事について

- ・事実誤認している部分はその旨をきちんと伝え、今後、国・都は丁寧にフォローしていくことが重要。

前回委員会意見について

- ・越澤委員から、前回委員会で「計画内容についての、より具体的な詳細な資料を提示すべき」との要求があり、構造別、区市別の移転家屋数の概数を口頭にて回答。

これまでのP Iのとりまとめについて

アンケートについて

- ・たたき台の認知度が広域のわりには高い。
- ・P Iの評価はアンケートの中で説明しているので、割り引いてみるべき
- ・P I方式で検討していることを知らせることもP Iとして重要。
- ・高架と地下案の評価について、「よく分からない」としている人が多いのは正直な結果。
- ・「よく分からない」としている人が多いのは正直な結果。
- ・沿線を対象としたアンケートは、いつになろうとも実施すべき。
- ・概ねの世論を把握する意味はあるが、どういう属性の人がどう答えているか、詳細に分析すべき
- ・2年前との変化について分析すべき

新聞広告について

- ・反応は少なかったのではないか。
- ・デザインが下手。メッセージが伝わりにくい。
- ・P Iを実施していることだけを伝えようとしているのは良いこと。

P I協議会について

- ・I Cに関する図面に議論が集中。図面だけ出すのではなく、生活や環境への影響を含めて提示すべきだった。
- ・協議員からプレゼンされた資料について、議論する時間がなく、残念。
- ・必要性の議論はB / Cをきちんと出すべき。I Cの有無はB / Cを左右するので、必要性の議論の中で検討すべき。

提言のポイントについて

- ・構想段階で外環の必要性の有無をP Iで議論するには、どのような項目をどの程度の情報量で行うべきか、委員会で検討していく。
- ・次回までに各委員から、それぞれの意見を提出してもらおう。
- ・委員会設立から1年たったので、自らの自己評価という意味も含めて年内に提言したい。